

国際貿易港としての歴史

東埠頭は金属スクラップなどの国際的な資源の循環(リサイクル)を可能とする“リサイクルポート”の中核として、金属スクラップなどを扱っています。



平成6年に国際貿易港として外航船が直接入出港するのに必要な「税関」「出入国管理」「検疫」の指定を受け、開港した石狩湾新港は“世界とつながる国際貿易港”として歩み始めました。

- 平成6年 「出入国港」に指定され、関税法に基づき開港
・「小樽税関支署石狩出張所」設置
・「無線検疫港」に指定
- 平成9年 石狩湾新港に初めてとなる外貿定期コンテナ航路(興亜海運株)の開設
- 平成11年 「植物防疫港」に指定
- 平成12年 「動物検疫港」に指定
・外航商船入港1千隻を達成
- 平成13年 花畔埠頭にガントリークレーンが供用開始
- 平成15年 「リサイクルポート」に指定
・新たな外貿定期コンテナ航路(高麗海運株)が開設
- 平成17年 「検疫港」に指定

北海道の
港湾では最短!!

国際コンテナ輸送基地としての機能向上のため、作業効率のよいガントリークレーンを配備しました。コンテナ輸送は、貨物を国際規格に基づく同じ大きさの箱に入れて運ぶため、世界中どこへでも輸送することができます。

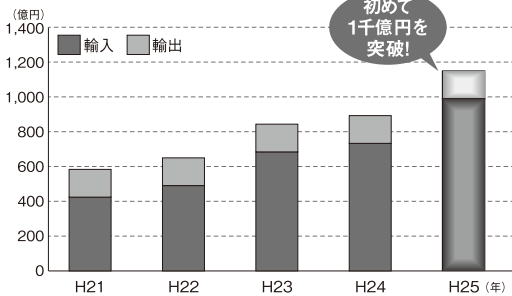


外貿定期コンテナ航路開設により、国際物流拠点としての成長が加速しました。

ISHIKARI BAY NEW PORT

1994-2014

▼貿易額の推移



昨年の外国貿易額は、魚介類などの輸出や天然ガスなどの輸入が増えた結果、約1,185億円と過去最高でした!

物流拠点である新港を核として発展する新港地域

石狩湾新港は、国際貿易港として20周年を迎えました。

開港以来、市は港湾管理者と共に港の発展に向けて取り組んできました。北海道の日本海側の物流拠点である石狩湾新港と連動する新港地域では、600社を超える企業が操業し、1万3千人に及ぶ雇用が生まれています。

加えて、国内の産業構造の変化に伴い、データセンターなどの情報産業の立地や、超電導直流送電の実証実験も始まるなど、次世代に向けた新たな動きも出始めています。さまざまな産業分野の施設が集積し、今後も北海道の発展を担うことが期待される石狩湾新港は、今や国内外から注目を集める存在です。

INTERNAT 石狩湾新港

中央埠頭にはLPGや灯油、軽油、ガソリンなどの石油製品を供給する基地も。



北海道で唯一、LNGの輸入に対応した「石狩LNG基地」が中央埠頭に完成。平成31年2月には北海道電力㈱によるLNGを使用した火力発電所も稼働する予定です。

- 平成18年 多目的国際ターミナルの核となる西地区の水深14m岸壁が供用開始
- 平成20年 北海道ガス㈱が石狩湾新港中央地区での石狩LNG(液化天然ガス)基地建設計画を発表・着工
- 平成22年 国土交通省から「重点港湾」に選定
- 平成23年 北海道電力㈱がLNG火力発電所建設決定
- 平成24年 北海道ガス㈱による「石狩LNG基地」の運転開始
- 平成25年 LNGを石狩湾新港から道内の他港に輸送開始
- 平成26年 石狩湾新港開港20周年記念式典・祝賀会、シンポジウムを開催



耐震強化岸壁は、大規模な地震などが起きた際の損傷を最小限に防ぐ構造です。これにより災害発生後においても、支援物資の海上輸送ルートが確保されます。写真は平成25年6月に開催された供用式の様子です。

紙の原料となる木材チップは海外から輸入されるため、大量に運ぶことで輸送の効率が上がります。水深14m、延長280mの岸壁を備えた西埠頭は、5万トン級の大型船に対応した埠頭です。



20th ANNIVERSARY

開港「20歳」を祝う

6月10日(火)にシャトレーゼガトーキングダムサッポロで記念式典・祝賀会とシンポジウムが行われました。記念式典には石狩湾新港管理組合管理者の高橋知事をはじめ、関係者が参列しました。シンポジウムには約460人が来場。(財)日本総合研究所理事長の寺島英郎氏による基調講演で、世界のエネルギー事情の変化や日本海物流の重要性が語られ、石狩湾新港の可能性が示されました。

続いて行われた「エネルギーシオン」では、田岡市長がLNGやLPG、オイルターミナルなどのエネルギーと石狩湾新港の関係、超電導や洋上風力計画などを紹介しました。参加者の一人、花川北の牧野功さん(79)は「石狩の港には未来があるなと思いました。ガス関係や超電導の話もあり、どんどん夢は広がりますね」と笑顔を見せていました。

